

(風俗慣習)

岡山の水かけ祭

(トウワタシ)



福島市岡島(旧岡山村のうち)の源氏山鎮座の鹿島神社の秋祭りは古くは「岡本の水かけ祭」として毎年十月十九日(旧九月十九日、二十日)に、七組順まわりのトウメエ(当前、頭前)により執り行われてきた。社歴によると延喜式内社と伝え、信夫国造が地方開拓の守護として勧請したとする。背後の山には旧社地があり、後期群集墳があり金銅製太刀金具等が横穴式石室内から発見され、また、火中した藤原期の鏡像が出土している。旧八月二十八日(現在は九月二十七日)頭前で神酒一石の濁酒を氏子の杜氏により仕込まれ、十九日の当日朝供物を調達し、神輿神幸があり、ヤド(宿)といわれる頭前の家につき水かけ祭りをを行った。昭和三十一年からミズヤ(水屋)を境内に建てここで行われ若干改変された。今は宿に神輿が渡御して神事と御神酒開きがあり、再び神社に還り、水祝が行われる。



所在地 福島市岡島字竹ノ内
保護団体 岡山鹿島神社水かけ祭保存会
代表者 六戸二郎